



2022年度 法人介護職員研修

「介護職における法人内連携のあり方」

【研修日時・場所・受講者】

- ・ 日時：2023年2月8日（水）13:00～16:00
- ・ 場所：協和会本部 3階研修室 ZOOM配信
- ・ 受講者：法人内介護職 参加者：31名

【研修目的】

1. 法人内での介護職の役割を認識する
2. 施設や病院の多職種との関わり方を学び知識を広げる

受講者の感想 アンケートより抜粋

- ・ 介護職として情報共有を積極的に行っていく。
またその為には自分がスキルアップしないとレベルの高い連携が出来ない。
- ・ 利用者の生活の変化に気付ける専門職であると再認識し利用者の変化に気付いた事を看護師や他の職員と共有し自分の中だけで留めないようにしたい。
- ・ 事例をもとに連携の必要性を再認識できた。今後様々な場面で活かせるように行動していく
- ・ 多職種との連携の大切さ、コミュニケーションの大切さ
- ・ 普段からあまり多職種と積極的にコミュニケーションが取れていないので、取る方法を考えたい。
- ・ 自分からも看護師やリハビリと積極的にコミュニケーションをとって情報連携をしたい。
- ・ 他職種との連携の前に、フロア内でのチームワークの必要性があり、コミュニケーションを図っていく
- ・ 多職種連携の必要性は理解できましたが、実際看護補助者として連携の中に入るのは難しい点ではあります。
- ・ それぞれの職種、施設の役割、目的を理解した上での情報収集が重要であるという事が今後サマリー作成時とても役立ちそうだと思います



介護職における 法人内連携のあり方

多職種連携

協和会

2023年2月8日
在宅支援センター 田中 恵美子

Copyright © 2023 Kyowa Medical Corporation. All Rights Reserved.

介護職員が知っておきたい医療との連携の基礎

連携を知る上では、お互いの視点に立つことが大切です。

連携が必要な背景

要介護状態になった高齢者は介護を要するだけでなく、複数の疾患を抱えている場合が増加

生活のケアをするだけでは根本的な解決ができず、より個々の状態に合わせたサービスの提供が必要

医療の知識があると、生活状況（結果）と疾患（原因）の関係が掴みやすく、利用者の全体像が把握しやすくなる。

医療と介護が連携して関わっていくことが推進

医療からみる介護の重要性

◆医療者は生活状況を把握しきれない

医療者が利用者宅を訪問する頻度は、概ね週に数回、提供時間も1時間以内である。この程度の関わりでは食事や排泄、睡眠や運動など利用者の生活状況を十分に把握して、適切な医学的診断をすることは難しい。

◆介護職は生活の変化に気づける専門職

介護職の場合、多くの時間を利用者とともに過ごすため、日常生活の変化に気づきやすいというメリットがある。介護職は、利用者の生活に関する情報を医師や訪問看護師、ケアマネジャーなどに伝えることによって、病状の変化や薬の副作用による症状を早期に発見できることを期待されている。

◆利用者や家族が医療者に言いつらい場合がある

介護職は、利用者とともに過ごす時間が長いことで、身近な存在になれる。医療者は治療的視点で関わることになるため、利用者や家族が気持ちを医療者に言いつらい時がある。介護職はそのような様子を察知し、利用者や家族から適切に情報を把握した上で医療者に伝えるなど、利用者の意思決定をサポートする役割も期待される。